

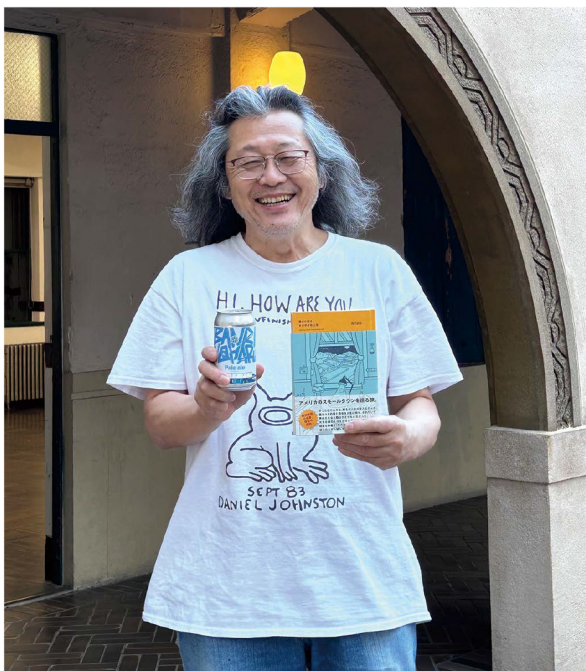
時々お酒@芝川ビル



ナカノシマ大学2026年7月講座

あの店主が初登場!ほろ酔い気分で本と街の話を

旅と本と大阪ばなし



左/中川さんが持っているのは当日販売する、今年復刊された駒澤敏器の「語るに足る、ささやかな人生」(風鯨社)と、富田林市「万里春酒造」のペールエール(芝川ビルモダンテラスにて) 右上/夏は日陰が濃くなる芝川ビル界限 右下/東横堀川沿いの本町橋東詰で中川さんが毎月出店する「古本屋台」

7/22(水) 18:00~19:40(17:30開場)

会場 **芝川ビル4階モダンテラス**(中央区伏見町3-3-3/地下鉄淀屋橋駅11号出口徒歩1分)

受講料 **2,500円**(大学生以下1,500円)※学生証を提示 定員 **80名**

講師 **中川和彦**(スタンダードブックストア店主)

主催 ナカノシマ大学事務局(株式会社140B)

協力 芝川ビル

「本は人と人の垣根を下げる」を実践してきた人の、「居場所づくり」の歴史を

「本屋って、自由で心地よい場所なんだ」。心斎橋や茶屋町、あべの、森ノ宮にあったスタンダードブックストア(STDBS)に足を踏み入れた人は、「ベストセラーはおいでません」という店主・中川さんの姿勢に共感して、自分だけの居場所にして楽しんでいたはずだと思います。

STDBSで中川さんが開いたトークイベントはなんと1000回を超えています。あの店の自由な空気を再現する場をひと晩限定で開催します。夏の夕暮れは芝川ビルへ!

〈講師からのメッセージ〉

久しぶりに人前でお話することになりました。実店舗を閉めて3年。何がお話できるやら正直不安です。父の死後、本好きでもないのによくわからないまま本屋を引継ぎ足掛け40年。20年前に本と雑貨とカフェを融合させたスタンダードブックストアをオープン。それ以来ずっと場外乱闘みたいな感じでやっています。

今はお客様との距離感が楽しい古本屋台を川辺でやっています。常に心にあるのは「自由」。それがあからこそ人が自分らしく振舞え、本があるから心地よい場になります。本はあらゆるハードルを下げるツール。当日は一方通行にならず皆様との会話を楽しみたいです。

なかがわ・かずひこ 東大阪市出身。大阪市立大学住居学科を卒業後に建築事務所などに勤務。難波の高島屋などで書店を営んでいた父親の死を契機に、株式会社録の木代表取締役になる。2006年、西心斎橋にスタンダードブックストア(STDBS)を開業し、茶屋町、あべの、森ノ宮、天王寺でも展開。併設カフェでの「会計前の本の持ち込み可能」が話題に。現在はSTDBSの新たな視点を模索しつつ、心斎橋パルコ等でのコーナー展開や各地で古本屋台(本屋&バー)を出店、新旧ファンを楽しませる。作家や出版関係者、ミュージシャン、デザイナー、環境プロデューサーなどの信頼も厚い。

※当日は会場で、中川さんが選んだ本とお酒(ビール、ワイン、日本酒、焼酎)、ソフトドリンクを販売します。お楽しみに!



講師の中川和彦さん

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は8月19日(水)18時予定……「アートも音楽も人も、街で出会うからおもしろい(仮)」
講師=古谷高治(心斎橋「TANK酒場」店主)

